

保護者各位

令和元年度 南アルプス市立若草小学校 学校評価の結果及び改善へ向けての方策について（後期）

南アルプス市立若草小学校
校長 河西 美代司

寒冷の候 保護者の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育に対しましてご理解とご協力を頂きありがとうございます。

さて、11月に行った学校評価について得られた結果及び改善へ向けての方策について報告いたします。

1 本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

2 本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。
- (7) 学校・保護者・地域の絆で「若草みまもりたい」を推進する。

3 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は、

- A：そう思う
- B：ほぼそう思う
- C：あまりそう思わない
- D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）○「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価） |
|--|

4 改善へむけて

今回のアンケート結果を踏まえ、今後さらに重点的に取り組むべきことを以下にまとめた。

I 学校生活について（後期）考察

◆「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と肯定的に感じている割合は、児童・保護者とも9割を超え高い。肯定的な回答の中で「A そう思う」の割合では、児童が7割で保護者が5割と児童の方がより高く、児童とは若干の相違がみられる。否定的な回答をした児童6.1%（前期比-0.6%）・保護者6.3%（前期比-0.3%）である。学校が楽しいと感じる要因には、ねらいを明確にした学校行事や良好な人間関係に基づく学級づくり、意欲的に学び合う授業の創造などを挙げることができる。さらに楽しく学校生活を送れるよう改善を図っていく。

◆「クラスは目標に向かってがんばっている」について

「クラスは目標に向かってがんばっている。」と感じている割合は高く、児童97.8%（前期比+1.0%）保護者95.82%（前期比-0.4%）と児童は若干向上した。一人一人が学級への所属意識をもち存在感を味わうことは、学校生活を送る上で大切である。今何に向けて頑張っているのかの意識付けを常に意識させ、具体的な取組を今後も行っていく必要がある。

◆「困った時に誰かに相談できる」について

「困った時に相談できる」と肯定的に回答した児童の割合は89.4%（前期比+1.5%）、保護者の割合は94.3%（前期比+2.4%）となった。ただ否定的な回答をした児童の割合は10.6%と他の評価項目と比べて多くなっている。不登校やいじめ、SNSの弊害が社会問題になっている昨今、近くに相談できる人がいることの重要性に目を向け、家庭との連携をさらに深める中で、児童が悩みを抱え込まないように相談しやすい体制を構築していく。

◆「あいさつ」について

「地域や家庭でしっかり挨拶をしている」と肯定的な回答は、児童が90.4%（前期比-3.2%）、保護者が83.9%（前期比-2.2%）となっていて、保護者の評価に依然低さがみられる。児童のあいさつへの意識は、前年度の同時期比でみると-5.0%である。児童会やPTA活動、地域みまもり隊の取り組みが定着し、学校全体であいさつ運動に取り組んでいる成果が出ているとは言い難い。保護者の前年度の同時期比は+2.2%となっていることから、あいさつの大切さを学校、家庭、地域で共有し、今後もあいさつ運動の取組を工夫し、充実させる必要がある。

◆「係や当番の仕事・そうじ」について

肯定的な回答は、児童が98.2%（前期比-0.4%）、保護者が95.8%（前期比0.6%）と割合が高く、友達と協力して行う係活動や清掃活動を進んでやっている。今後も、校内美化や環境整備に努め、勤労をする心や愛校心を育てる教育活動を大切にしていく。

II 学習指導について（後期）考察

◆「学校の授業がわかる」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を楽しく送る上で最も大切なことである。児童は、96.1%（前期比2.7%）と微増になっている。反対に、保護者は89.1%（前期比-0.1%）と児童の評価より

低く、家庭で学習の様子を見ている保護者にとって、基礎学力の定着に課題を感じていることがよみとれる。引き続き、基礎学力の向上を踏まえた授業改善に全校で取り組んでいく。否定的な回答をした児童が2.7%（前期比-2.8%）と微減していることも、取り組みの成果が出ている表れでもあるので、今後も保護者への理解と協力を得る中で意欲を持って学習でき、わかる授業を展開していく。

◆「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

「聞く態度の育成」は、校内研究会等の中軸に据え全職員であらゆる機会を捉えて進めている。肯定的な回答は、児童が98.2%（前期比+1.6%）、保護者が96.1%（前期比+1.5%）と肯定的な意見が多い。授業の中でも、話をしている人の方を向く、話に反応するなど学び合いに必要な態度を身に着けるための指導を行っている。授業改善の一つの柱として、「聞く態度の育成」を今まで以上に進めていく。

◆「授業中の発言」について

「発言をすること」は、保護者の肯定的な回答が96.4%（前期比+2.2%）である。しかし児童においては肯定的な回答が78.5%（前期比-2.1%）と2割ほどの低さがみられる。挙手をしての発言は高学年になるほど減る傾向にあるが、グループ・ペアでの学び合いを通して、多く児童が意見交換をし、多様な考えを出し合う授業を仕組んでいる。「発言」を挙手によるものだけを捉えるのではなく、多様な場面での発言が授業を創る上で大切であることを伝えていく。その上で、課題克服のため校内研究と連携し「聞く態度の育成」を含め、「自分の考えをもち、伝え合う学習」を推進していく。

◆「宿題や自主学習」について

家庭学習は、児童が92.1%（前期比-2.0%）保護者が87.4%（前期比-2.9%）と前期に比べ微減し、児童と保護者で差がみられる。児童の「A そう思う」が肯定評価92.1%の内73.8%に対して、保護者の「A そう思う」は37.1%で、「B ほぼそう思う」の50.3%が多く、他の学習に関する評価項目と比べると「B ほぼそう思う」の割合が高い。家庭学習強化週間を設け取り組んでいるが、内容や期間等の改善を図るなど、まだまだ自主的な家庭学習については改善の余地がある。基礎学力の定着には、家庭との協力が重要である。今後も校内体制も整え、取組を工夫していく。

Ⅲ 生徒指導について（後期）考察

◆「きまりや約束を守る」について

学校の約束や決まりを守ることは学校生活を安全・安心に過ごす上でとても重要である。肯定的な回答が児童は98.2%、保護者が96.9%であり満足できると結果であった。否定的な回答をした児童が1.8%（前期比+0.8）いる。決まりがあることの意味や、自治的な活動を通して、安全で安心な学校生活を自分たちが作っているという実感を持てるよう、一人一人の児童にしっかりと目を向け、丁寧な指導を心がける。

◆「友だちのいやがること、言ったりやったりしない」について

「友だちのいやがることを言ったり、やったりしない」について、児童では「していない」という肯定的な割合が95.1%（前期比+1.5%）である。保護者でも「いじめへの対応」に肯定的な回答が93.8%（前期比+1.1%）と9割を超えている。しかし否定的な回答をする児童が4.9%（前期比-6.5%）と減っているものの、保護者は4.4%（前期比+1.4%）と否定的な回答が増えている。個々に状況を把握し、丁寧に対応していく必要がある。いじめや諸問題行動への対応の基本は未然防止、早期発

見・早期対応である。年2回のQU検査等も活かしながら、「友だちのいやがることを、言ったりやったりしない」ことを大切に居心地がよいといえる学級づくりを推進していく。

IV 学校経営について（後期）考察

◆「学校行事」について（保護者）

充実した学校生活を送る上でも学校行事の果たす役割は大きい。「学校行事は、子どもたちが楽しく参加できるように実施されていますか」の項目について、肯定的な回答が93.7%（前期比-3.1%）であった。新学習指導要領への完全実施を迎え、授業数確保、体調面での負担軽減等の為、運動会や音楽会等の内容・取組等の変更を行った。児童の実態に応じ工夫して実施したが、保護者の満足度はやや減少傾向となった。これまであったものを変更する際には十分な説明が必要であり、なによりも内容が充実してくることが大切である。活動のねらいを明確にし、変更することでも得られる児童の学びを適正に評価していく必要がある。今後もこれまでの活動を振り返り改善する中で、児童の体調面を考慮し、教職員の効果的な指導も考えながら、児童・保護者が満足を得られるよう学校行事を考えていく。

V 研究について（後期）考察

◆「校内研究会」について（教職員）

主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答する教職員が100%（前期比±0%）だった。やまなしスタンダードの視点を生かし、児童自らが学び合うための授業づくり等を全職員で確認し実践してきている。今後も、児童の「Ⅱ学習について」の項目で、授業が分からない3.9%（前期比-2.8%）、聴く態度の課題1.8%（前期比-1.5%）、発言の課題21.5%（前期比-2.1%）がいることを常に意識し、きめ細かな指導を継続的に行っていく。来年度から新学習指導要領が完全実施となる。授業数や内容の変更への対応を教職員で情報を適切に共有し、校内ばかりでなく、先進校の視察を含めた授業・研究会での一人一人の学びを還流するなどの充実を図ることで、全体の教育力の向上へとつなげていく。

◆「特別支援教育」について（教職員）

特別支援教育に対する校内支援体制は、肯定的な回答が100%と高評価であるが、その内訳をみると「A そう思う」が77.8%（前期比-19.3%）、「B ほぼそう思う」が22.2%（前期比+19.3%）と、B評価が増加している。本校には特別支援学級が5学級あり、それぞれの学担が交流学級との連携を図りながら指導に当たっている。さらに、普通学級の中にも支援を必要とする児童が多数在籍しているため、個に応じた指導に十分な時間と教員を配置することが困難になっている現状がある。組織で対応できるように、特別支援校内委員会やケース会議の定期的実施し、さらに連携を密にしていく。個別の教育支援計画や個別の指導計画等を保護者と連携しながら作成し、全教職員がインクルーシブ教育への理解を深め、共通理解した上で支援・指導を行っていく。

VI 施設・設備・安全管理について（後期）考察

◆「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心で安全な場所でなければならない。教職員の「A そう思う」の肯定的評価が100%であり、定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めている。施設の老朽化に伴い、安全点検等をより一層念入りに実施していく必要がある。設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止にこれからも努力していく。

◆「施設・設備」「教育備品」について

学校施設について肯定程な回答をした保護者は94.8%（前期比-7.1%）であり、その内訳はA評価36.8%（前期比-4.5%）、B評価51.0%（前期比+1.3%）である。しかし、学校を使用している教職員は肯定的な回答はやや低く77.8%（前期比+42.5%）であるものの、前期より増加している。消耗品など教育備品について肯定的な回答が100%（前期比+64.7%）と大幅に改善している。大規模改修を見込んで、改善してほしい個所をこれまで上げてきていたが、長寿命化への変更、さらにその計画の先が見通せない中で、今あるもので対応していかなくてはならないという表れではないだろうか。これまで同様、長期的にお願いしていくもの、早期に依頼するものを見極め、要望を出していく。消耗品についても、大切に節約して使うことを心がけ、必要なものには予算を要求していく。

◆「登下校時の安全確保・避難訓練等」

保護者の肯定的評価が96.3%（前期比-2.1%）と高い評価を得ている。教職員評価も「A そう思う」が100%（前期比+6.2%）であり、計画的な訓練の実施についても「A そう思う」が100%（前期比+52.9%）と大幅に改善している。子どもたちの安全確保や事故防止について日々の指導の充実を図り、教職員がまず自分がどう動くのかを考えられるように、様々な場面を想定して訓練を実施している。児童にも事前学習と事後の振り返りを行う中で、どのような行動が自分で自分の身を守る行動につながるのかを考える機会としている。登下校で集合する場所に大人がいるかなどの調査も行ったり引き取り訓練時に合わせて登下校時の安全確認を行ったりしている。今後も保護者や地域と一体となり、見守り隊の活動を広げながら児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育を推進する。

VII 保護者・地域住民との連携について（後期）考察

◆「情報発信（よく目を通していか）」について

「お便りをよく読むか」についての肯定的な回答は93.7%（前期比-1.5%）ある。その内容は、「A そう思う」49.7%、「B ほぼそう思う」44.0%である。通知を保護者の方に読んでいただくように、適切な時期に配布することやわかりやすい内容を心がけていく必要がある。否定的な回答が6.1%であることから、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、さらに協力し連携をとり、適切な情報を発信していきたい。

◆「授業参観 学校行事への参加」について

本校では月に1度、授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。授業参観や学校行事の持ち方については、肯定的評価が97.1%（前期比-1.1%）の回答を得ている。これまでも、運動会や音楽会、学校行事等の内容を見直しながら実施してきている。学校での普段の児童の様子を見ていただき、児童の成長をともに確認し合える機会となるよう授業参観を実施

していくとともに、ねらいを明確にした行事の工夫を行っていく。

◆「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

保護者からの相談や要望に適切に対応しているについては肯定的な回答が 97.8%（前期比+1.4%）であり、教職員が相談ごとに丁寧に対応をし、保護者と一緒に考えている結果である。様々な困りごとを抱える中で、学校と保護者がお互いの考えを共有し理解を深めていくことは、児童の健やかな成長にとって必要不可欠な取り組みである。しかし 2.0%（前期比-1.1%）の保護者が否定的な回答をしていることから、さらに保護者との関係を密にとりあい、丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていく。

◆「安全確保・見守り活動への関わり」について

見守りたすきを導入し、見守り隊を、中学校や地域に広げることができている。意に賛同してくれる団体も出てきていて、この 1 年間でさらに浸透した。児童の登下校時間に、地域の人がたすきをかけているのを見かけることも多く、児童の安心安全な通学につながっている。保護者の肯定的な回答は 85.9%（前期比+0.4%）であり、「A そう思う」が 37.7%（前期比+0.2%）、「B ほぼそう思う」が 48.1%（前期比-1.9%）である。児童の安全を確保するために、地域や保護者の協力は欠かせない。今後も地域・保護者を巻き込んで児童の安全を守っていくことを検討していく。